第４号様式（要綱第６条関係）

2026 年度　第２回　大庭と小糸みんなの学校運営協議会 会議録

開催日時　2026 年　９月 18 日（金）10 時～12 時
場　　所　藤沢市立小糸小学校　ランチルーム

出席委員	参 加 者 1 細沼 惠美子（大庭と小糸みんなの学校運営協議会会長／湘南大庭地区子どもサポート会議会長） 2 大塚　真奈（湘南大庭市民センター　センター長） 3 小澤 明雄　（副会長／藤沢市立大庭中学校 校長） 4 澤野 美奈子　（副会長／藤沢市立大庭小学校 校長） 5 北野 博三　（副会長／藤沢市立小糸小学校 校長） 6 渡邉 なな子　（大庭中学校 保護者） 7 綾部 幸恵　（大庭小学校 保護者） 8 金田 久美子（小糸小学校 保護者） 9 玉置 日菜子　（藤沢市社協地域福祉課 湘南大庭地区担当 CSW） 10 大川 裕三　（湘南大庭民生委員・児童委員協議会 会長） 11 大竹 貞代　（藤沢若葉幼稚園 園長） 12 渡辺　鶴雄　（地域子どもの家ちびっ子ドーム） 13 東谷　聡子（小糸小学校区放課後子ども教室推進事業運営委員会(こいとっこ委員長） 14 飯島 広美　（元藤沢市教育委員） 15 相原 佐登美（社会福祉法人光友会ライフ湘南 所長） 出席委員：１５名（委員欠席０名） 事務局　：猿渡 千恵子（藤沢市立大庭中学校 教頭） 藤本 伸一（藤沢市立大庭小学校 教頭） 上村 辰男　（藤沢市立小糸小学校 教頭） その他出席者：０名 傍聴人数：０名 オブザーバー：０名 配付資料：AI に関する資料(2 枚)、職員紹介の資料(2 枚)
次第	１．開会 ２．委嘱状交付 ３．議題 （１）コミュニティスクール予算について （２）３校合同事業について （３）大庭小・小糸小運動会について （４）校内見学・授業参観 ５．閉会
協議内容	（１）　コミュニティスクール予算について ・各校で、市から支給された予算の使途を協議するため、学校ごとに分かれて協議・とりまとめを行った。 ① 大庭中グループ 防災備蓄と簡易トイレの必要性 大庭中学校で避難訓練を実施。引き渡し不能で校内待機となる事態を想定

し、食よりトイレを優先すべきとの提起。
簡易トイレの必要回数目安は 1 日 7 回程度。8 回以上は頻尿傾向との知見共有。
これまでの備蓄はペットボトル(500ml×3 本)とアルファ米購入が中心で、価格は 1,100 円→1,200～1,300 円程度に上昇。
過去にはタオル、缶パン、巾着、簡易トイレ 3 個を含むセット(約 2,500 円)を備蓄し、卒業時に持ち帰らせていた事例あり。
トイレ環境整備の課題(洋式の少なさ、内開き扉で手すり設置困難、外開きは安全面懸念)を共有。
予算配分に制約はあるが、簡易トイレ等の準備を検討したい意向。
結論: 簡易トイレの優先確保とトイレ環境改善の必要性を再確認。

② 大庭小グループ
停電・夜間時の安全確保(照明等)
停電時の導線照明の重要性を議論。手回し発電等の照明機器の活用提案。
暗所での移動・トイレ利用の不安軽減を目的に、明かりの設置が必要。
結論: 導線上の照明確保(携行・常備の両面)を検討。
児童生徒主体の避難訓練の振り返り。
抜き打ちの自主避難訓練を実施し、分散状況下での自助・共助(高学年が低学年を守る意識)を観察。
反省の場は教員目線に偏りがちであり、児童生徒の感じた点を吸い上げる仕組みが必要との意見。

③ 小糸小グループ
見守りボランティア体制の課題と緩やかな拡大策
夕方等のライフスタイルに合わせた柔軟な参加を促す方策(プレートの配布、自転車カゴ用サイン等)を検討。
「誰でもよい」わけではなく、段階的に人材を広げる方針。
結論: 見守り参加の柔軟化と可視化ツール整備で裾野拡大を図る。
学校放送設備ダウン時の通信・拡声手段
大規模地震で放送設備停止の懸念。大型機材は機動性に難あり。
コンパクトで使い勝手のよいハンドマイク等を複数配備したい。
結論: 小型拡声器の分散配備を予算計画に反映。
異なる時間帯・場所想定の避難訓練計画
夏季に想定外の場所からの火災を想定するなど、従来と異なる出火点での訓練を 10 月に実施予定。
子どもに「いつもと違う」避難経路を経験させる意図。
結論: 訓練想定の多様化を進める。

（2） 3 校合同事業について
・三校合同の引き渡し訓練(来年度実施検討)
これまで学校単独で実施していた引き渡し訓練を、実災害を踏まえ三校で連携して行う計画。
年間計画に組み込むため、本年度中に来年度の実施時期を決定。
候補は 5 月後半～6 月、午後早い時間帯の地震想定。
引き渡し開始は安全確認後(発生から約 30 分目安、要現実調整)。
終了時刻も設定。

	天候等により屋内(耐震性確保済)での引き渡しに切替可。 中学生による小学生引き取りは今回想定せず。保護者は家庭事情に応じて中学校→小学校/小学校→中学校の順を選択可。 実施後は保護者アンケートで課題を収集。初年度は三校内に限定し、次年度以降段階的拡大を検討。 地域・幼稚園等には当日の見守りや混雑状況の観察・情報提供を依頼予定。 結論: 来年度の三校合同引き渡し訓練を本年度内に計画確定し、段階的実施と検証で改善していく。 保護者参加・代理引き取りの取り扱い 仕事等で来校できない保護者への対応として、代理人登録による引き取りを周知。 誰も来られない場合は終了時刻まで学校待機とする方針の説明あり。 中学校は実災害時は安全確認後の自力下校も想定だが、今回訓練では引き取り対象として扱う。 震度基準は最新では「5 強」を目安との情報共有。 結論: 代理引き取り制度の徹底と待機方針を明確化。 （3）大庭小・小糸小運動会について及び各委員から ・大庭小・小糸小運動会は同日であるため、ぜひ観覧していただきたいが半々でご覧になるなど、可能な範囲で依頼。 防災に関する保護者・学校の課題認識 大雨や地震など災害の範囲が広く、家族が離れている状況での連絡・集合方法が課題。 学校備品の整備は心強いが、子ども目線の不安(暗闇、保護者不在)に配慮した訓練や環境づくりが必要。 共働き世帯が多く、昼間の引き取り困難を前提に、子どもが安心して過ごせる体制を重視する声があった。 PTA 交流会の実施報告 PTA 主催で保護者・教職員の交流会を 2 日間開催、約 30 名参加。 教員の人柄や運営方針を知る機会となり、保護者の参加継続を望む声あり。 PTA 活動の継続性確保が必要(PDR が唯一の拠点)。校長からも PTA の支えが大きいとの評価。 学校バザー「おおばっこバザール」の案内 学内バザーを今年度も検討。子どもが紙のお金で出店・買い物を体験。 不要品の再利用や子どもの創作物の出品など、楽しいイベントとして周知。 開催案内:10 月 17 日(土)午前中、雨天時は体育館で実施。 幼稚園の防災対応(送迎・引き渡し) 震度 5 以上の地震発生時の対応冊子を保護者へ配布。保護者引き取りが原則、代理人事前登録での引き渡し可。 スクールバス運行中や登降園途上での地震時の具体行動手順を周知。 道路遮断時は徒歩での迎えを強く要請。職員からは二次避難先の質問があり、大庭小学校への避難の可能性を口頭で共有(正式依頼未了)。 年 7 回の避難訓練を実施。繰り返しで子どもが落ち着いて行動できるようになっている。

	消防・防災訓練の予定 市内部の年 2 回の防災訓練とは別に、10 月 1 日(木)15:00 から消防署協力の消防訓練を実施予定。 子どもの居場所運営上の注意 ちびっこドーム、昼休みの飲食は原則不可。持ち込み時の対応と声掛けルールを周知し、子どもの安心・安全を重視。 地区特性と防災意識 都市部と異なる地区特性を踏まえ、実情に合わせた防災意識の醸成が課題。 予算制約が共有され、給食関連の検討を早期に進めたい意向が示された。 引き渡し訓練の重要性(過去事例からの示唆) 東海地震予知時の訓練経験から、平時に訓練を重ね課題を蓄積することの有用性を強調。 発災直後は渋滞等で引き取り困難が想定されるため、訓練で具体的対策を検証すべきとの意見。 施設・事業所の防災備え 障害者就労施設で折りたたみ防災ヘルメットを更新。非常食を事前試食し、実用性を確認。 熱暑も災害と捉え、屋外活動時の冷却対策(首元氷など)を導入。 社会福祉協議会の役割と派遣 災害時の復興・ボランティアセンター立ち上げを担う役割を説明。 熊本などへの派遣経験・予定が共有され、職員の初派遣予定の調整中。 市の地域防災計画の改定 地域防災計画(約 1000 ページ)を 2025 年までの 2 年計画で使える形へ改定中。 大雨・地震など新たな課題が生じ続けるため、改善の反復が必要との認識。 東日本大震災 3･11 の教訓(代理引き渡し) 東日本大震災時、保護者が迎えに行けず代理人による引き渡しが有効だった事例を共有。 小さな子どもや就学前児への配慮と、事前準備の必要性を再認識。 コミュニティスクールの運営・予算 三校合同での運営は時間的制約が大きいが、全 4〜5 回の枠内で実施。 今年度から教育委員会へ申請し、センターに予算を集約し分配する方式へ移行。 学習支援(毎週火曜・大庭中)では、ボランティア以外の講師へ報酬を支払うための予算申請を要望。各コミスクの未使用予算の調整も提案。 防災関連で簡易トイレの確保、使用方法講習の実施を検討。市や関係団体からの物資提供の可能性にも言及。

次回開催日程　2026 年　11 月　26 日（木）10 時〜
場所　藤沢市立大庭中学校